

金融資限度額2千万円の維持、保証料の全額補給を継続してまいります。

観光面につきましては、宮城県緊急経済産業再生市町村連携事業が平成17年度までの2カ年で一連の事業が終了しましたので、小原・鎌先両温泉郷の新しい観光スポットの紹介も含め、観光PR活動の充実に努め誘客を図ってまいります。

さらに、今後白石城と中心市街地を、沢端川を見ながら市民や観光客が回遊できるよう、歩行者ルートの整備などを検討してまいりたいと考えております。

農業の振興による地域の活性化につきましては、平成18年度から新たな市単独事業として「地域農業いきいき推進事業」を創設し、19年度から実施される品目横断的経営安定対策に対応した認定農業者・集落営農を加速化させる取り組みや、地域の立地条件を活かした特色ある農林業の展開、「地産地消」など、市内すべての地域で意欲を持って取り組もうとする農業者・農業団体を支援してまいります。

生産調整の推進と農家の所得向上を目指す「産地づくり対策」につきましては、現行制度の最終年度に当たりますが、一貫して取り組んでまいりました本市の振興作物である「なたね」「そば」などの作付け面積をさらに拡大するとともに、平成16年度から取り組んでおります「アグリビジネス支援

事業」によって立ち上げた組織を主体に、白石市農政推進協議会との連携の下、売れる農産物づくりのための各種事業を実施してまいります。

中山間地域等直接支払事業につきましては、耕作放棄地の発生を防止し、国土の保全、水源のかん養、良好な景観形成などの多面的機能を確保する事業を行う8集落に対し、交付金を交付してまいります。

17年度からの継続事業であるせせら

ぎの里整備事業につきましては、18年度に園路、舗装、安全柵などを整備し、馬牛沼ため池の野鳥観察ゾーンを完成させる予定であります。

■人にやさしいまちづくり

次に人にやさしいまちづくりといたしまして、白石市独自で実施しております「学校いきいきプラン」を本年度も継続し、教員補助者を採用すること



▲仙台のデパートでの越河なたね販売風景

平成18年度事業紹介「地域農業いきいき推進事業」

各集落や農家組合、農業者団体などが、地域の立地条件を活かした特色ある農林業の展開や、「地産地消」など地域農業の活性化をさせる活動に対し補助金を交付して、集落営農の組織化を促進します。

【対象となる事業】

●産地拡大推進型

新たな農林産物の導入・継続、地産地消、グリーンツーリズムを実施し、産地の拡大と地域農業を発展させる事業

●集落環境保全型

集落などが取り組む環境保全事業や有害鳥獣による農作物被害が深刻化している集落などが取り組む被害防止機械などの整備

●集落営農促進型

平成19年度から実施される品目横断的経営安定対策に対応するため、集落営農を促進させる事業

【補助率（50万円を限度）】

●ソフト事業

補助対象事業費の2分の1以内

●ハード事業

補助対象事業費の3分の1以内

また、新しい気付きの視点で見たまちづくりに対する意見を施策に活かすため、新しく市民になられた方などを対象に、文化、スポーツ、子育てなどの施設を見学していただき、白石市のさまざまな事業を紹介し理解を深めていただくとともに、行政サービスや施設利用の利便性、また本市にとって不足しているものなどのご意見をいただきながら、改善が必要なものにつきましては積極的に実施してまいりたいと考えております。

昨年度から運行し、市民の皆様から愛称「きゃっするくん」として親しまれている白石市民バスにつきましては、路線や時刻などに地域の意向が反映されたこともあり、16年度の利用者数と比較して約35%の増加となっております。平成18年度は、地域から強い要望のある三本木線の延長運行と新規路線として薬師堂線の本格運行実施など路線を拡充することにより、高齢者をはじめとした市民のより一層の利便性と福祉の向上を図ってまいります。

障害者福祉事業としましては、身体的、精神的の障害種別ごとに分かれていた福祉サービスを一元的なものにする障害者自立支援法の成立により、さまざまなニーズに適したサービスを提供するための基本指針となる、障害者計画および障害福祉計画を策定するとともに、障害福祉サービスの支給決定に際して、中立的かつ公平な決定を行う

ための体制整備に努めてまいります。

また、高齢化率が25%を超えている本市にとりまして、高齢者福祉サービスの充実が市民が安心して生活するための重要な施策であります。4月には介護保険制度が高齢期を可能な限り健康で生き生きと過ごすことができることを目的に、予防重視型システムへ大きく転換し改正されます。本市では、これに伴い地域包括支援センターを設置し、高齢者が抱えるさまざまな相談に総合的に応じてまいります。また、適正なサービスの提供を図り、円滑な事業運営を図ってまいります。

保健事業につきましては、市民の健康寿命の延伸を図るため「白石市健康プラン21」のさらなる推進を図るとともに、低年齢化している生活習慣病を予防するため、学校保健と連携し、特に「正しい食生活」の普及に努めます。

また、一般の介護保険法の改正により65歳以上の健康相談、訪問指導などが老人保健事業から介護保険の地域支援事業に移行することから、介護保険との連携を図りながら有効性のある介護予防事業を推進してまいります。

環境面におきましては、本市の豊かな自然環境を守るため、市民の皆様および事業者の方々の理解と協力をいただき、今後ともごみの減量化とリサイクルを推進するとともに、公衆衛生の向上を目指し、合併浄化槽の普及を図るため設置助成を継続してまいります。

平成18年度事業紹介「南中学校校舎実施設計」

南中学校は、生徒や保護者の皆様の意見を十分に反映させたものとするため、ワークショップを開催しながら設計を進め、平成20年度完成を目指します。

3月5日、南中学校で行われた第2回目のワークショップには、保護者や地域の皆さん約30人が参加。前回のワークショップで出された意見や生徒からの意見などを取り入れた基本設計が提案され、生徒たちにとって使いやすい校舎となるよう検討しました。

今回のワークショップでの意見を反映させた基本設計を基に、本年中に実施設計が作成されることになっています。



▲当日、提案された基本設計案の外観の模型

場など多面的機能が発揮できる森林の育成に努めてまいります。

情報センター・アテネを中心としたIT化推進につきましては、引き続き基礎パソコン講習会を開催するとともに、より実践的な活用のためのアテネ塾を充実してまいります。また、隣接する図書館との連携を図りながら、DVD視聴コーナーを整備するなどの新たなサービス提供を図ってまいります。

教育・文化施設整備といたしましては、老朽化している南中学校の改築を生徒や保護者の皆様によるワークショップでの意見を十分に反映させ、平成20年度完成を目指し、本年度は実施設計を進めてまいります。